

## 「池子の森を守る」決議

神奈川県逗子市の池子の森には、貴重な自然や文化遺産が残されています。しかし、この森の米軍弾薬庫跡地を米軍住宅用地にするため、これらが破壊されようとしています。

この池子の丘陵で、地質学的にも貴重なシロウリガイ化石群集が発見されています。このシロウリガイは海底の湧水帯に生息し、湧水からエネルギーを摂取して生命活動をいとなみ、独特の生態をもつユニークな生物です。

周辺の地質や産状をふくめたこの化石群集の研究は、生物の生態や進化の解明のみならず、島弧周辺のテクトニクスや物質循環を解明するうえで、たいへん重要と考えられます。

現在、この地域では、米軍住宅建設の大規模工事がすすめられ、丘陵が削りとられて自然が破壊されつつあります。しかも、日米安全保障条約、および地位協定によって立ち入りが禁止されています。そのため、横浜防衛施設局や神奈川県から委嘱された特定の研究者しか調査できず、これらの地質や化石群集に興味をもつ多くの研究者などは調査・研究することができない状況です。

「緑と子供を守る市民の会」は、この地域の自然を守るため、10年間にわたり市民活動を続けています。シロウリガイ化石群集が発見されて以来、その重要さを自前で勉強し 1991年12月15日には日米両国の研究者を招いて、シンポジウムを開催しています。この会の要請に応え、地学団体研究会と日本科学者会議神奈川支部は共同調査を決定し、横須賀米軍基地司令長官あての要望書を提出する準備をすすめています。

地質学を研究する立場から、市民がのぞむこの地域の自然環境保全と学問の自由のために、シロウリガイ化石群集をふくむ池子の森の保全、およびこの地域の調査・研究の自由をつよく訴えます。

1992年5月3日

地学団体研究会第46回総会